

## 「マラウイ便り」 ～おやつ～

Vol. 3

「オディ!オディ!」家の門から何やらにぎやかでかわいらしい声が飛んできます。(オディとはチェワ語で「ごめんください。」の意。) 門を開けるとそこで待っていたのは近所の子供達。家に子供が訪ねてくるのは初めてです。「どうしたの?」と尋ねると、どうやら「庭に生えている実を取らせて欲しい。」と言っているよう。そういえば濃い紫色の桑の実が、庭の木から顔を出している。「どうぞ、どうぞ」と招き入れると、子供達は嬉々として桑の実を摘んでは食べ摘んでは食べ。そんな桑の実狩りの光景を見ているとなんだか微笑ましく、そういえば20年前には自分もこの子達と同じように桑の実を喜んで食べていたことを思い出しました。「とっても甘くて、おいしいよ。お兄さんも食べてみる?」そんな風に桑の実を手渡されると食べない訳にもいかず、「じゃあちょっとだけ」と口に含むと懐かしい味です。なんだかとても心和む一日になりました。

翌週、いつものように同僚と灌漑工事を行っている現場を巡回していると、堰の上で何やら真剣に水面を眺めながら、じっとたたずむ少年達がいます。近づいてみると、釣りをしているよう。邪魔するのも気が引けるなぁと思いながら、どんな魚が釣れるのかと興味が湧き、とりあえず「ボボ」と声をかけると(ボボとはチェワ語で「やあ」のような意味の挨拶言葉。)、快く釣果を見せてくれました。小ぶりでしたが、晩ごはんのおかずになるであろう魚が、もっと釣れることを願って少年達と別れました。

子供たちがお菓子を買えるまたは買ってもらえるチャンスはそうありません。そのような中でもマラウイの子供たちはみんな工夫し楽しみながら、身の周りのものをおやつとして食べています。



写真①：桑の木と近所の子供たち



写真②：近所の子供たち



写真③：釣りをする子供たち



写真④：子供たちが釣った魚